植物公園で寄贈を受けたバラ

在　岡　孝　行

平和のシンボルの代表とされるバラが，世界各国より数多く広島市に贈られている。その中で開園以来当園に関係したものを記録しておく。

(1)チェコスロバキアからのバラ

原爆ドームの設計者，故ヤン・レツル氏の取り持つ縁で，昭和53年チェコ連邦議会アロイス・ビンドラ議長が来広の際，市長との間にバラ苗交換の話が決まった。広島市からは昭和54年2月，かがやき，天津乙女など，日本作出のバラ6種18株をプラハ郊外リディツエバラ園に寄贈した。このバラ園は，第二次大戦中ドイツ軍により，村全体が地上から抹殺され，戦後イギリスの平和運動家の呼びかけで，村の跡地に友好と平和の象徴として作られたものである。

昭和54年11月，シュトロウガル首相が来日した際，外務省，本市東京事務所渉外課を経由後，バラ苗10品種90株が当園に届けられた。約3ケ月当園で樹勢を回復させた後，親木用として各品種2株を残し，他は昭和55年2月平和公園動員学徒碑付近や，市立高等学校4校に植栽された。贈られた品種は，ローズ・ゴジャール，タヒチ，キングスランサム，モラビア，ピカディリー，クローネンブルグ，プスタ，シーパール，ルドミラ，ノリータである。このうち，特に品種として重要と思われるものを表1に示す。

表1.　チェコスロバキアから寄贈されたバラ

品　種　名	系　統	作出者　年代	花　色　　その他
Tahiti	HT	F. Meilland（仏）1947年	黄色に赤が混じる覆輪 花径約15cm
Morava	HT	ヨゼフ・ストルナド　☆ （チェコ）	桃色中大輪 強健
Pussta (New Daily Mail)	FL	Tantau（独）1972年	濃赤色セミダブル 花径約10cm 樹勢やや弱い
Sea Pearl	FL	P. Dickson（英）1964年	うすピンク色裏弁黄色 強健　花径6～7cm花弁20枚程度
Ludmilla	HT	Laperrière（仏）1968年	藤紫色　高芯中輪 樹型は低い横張り

☆ チェコスロバキアの栽培家と言われている。

R. Pussta

R. Sea Pearl

R. Ludmilla

(2)オランダ（アムステルダム）からのバラ

アルバート・シュバイツアー博士の秘書であった，アリ・シルバー女史が講演のため広島を訪問した際いたく感動し，帰国後シュバイツアー協会に呼びかけ，昭和44年3月にドクターアルバート・シュバイツアーと名付けられた品種が寄贈された。その後昭和59年親木保存用として公園管理課より当園に届けられたが，老木の為め現在接木更新中である。

表2. オランダから寄贈されたバラ

品種名	系統	作出者 年代	花色 その他
Dr. Albert Schweitzer	HT	Delbard（仏）1961年	紅桃色弁裏白の複色 花弁数30～35枚大輪

(3)イギリスからのバラ

昭和44年5月市長から英国総領事に，英国の国花であるバラの寄贈を依頼した所，ジョン総領事が帰国した際手配され，昭和45年2月広島市に届いた。贈られた品種はコッパーポット，バーミンガムポスト，EHモース，キングスランサム，ウエンディカソンズ，ブルームーン，ピカディリーの10品種各10株計100株である。その後昭和59年公園管理課より下記の2種が，当園に親木保存用として送られ，現在接木更新中である。

なお，上記(2)(3)の品種は現在平和公園原爆の子像付近に植栽され，毎年みごとに開花している。

表3. イギリスから寄贈されたバラ

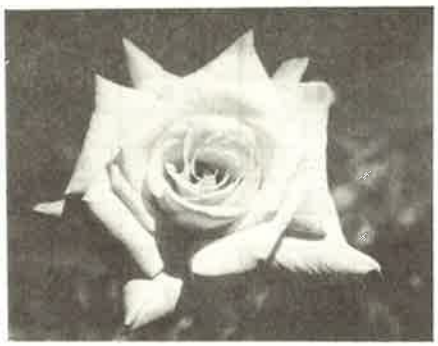
品種名	系統	作出者 年代	花色 その他
Birmingham Post	HT	Watkins（英）1968年	濃桃色大輪 強健
Copper Pot	FL	P. Dickson（英）1968年	銅オレンジ色，横張型 花弁数14～17枚セミダブル

(4)ヒロシマの子供たち

（Hiroshima's Children）

昭和56年広島市在住の平和運動家原田東岷氏（日本バラ会評議員，広島バラ会相談役）がイギリスの高名な育種家，J・ハークネス氏の農園を訪れた時，平和論で意気投合され，かねてよりヒロシマの名前を持つバラの作出を考えておられた同氏が依頼された所，昭和59年8月ハークネス氏から新品種のバラ穂木が届けられた。昭和59年10月に開花したこの新品種に，平和の祈りを込め，21世紀の世界平和は広島の子供たちにかかっているとの認識から「広島の子供たち」という名前がつけられた。その後昭和59年10月にR. caninaに芽接ぎされた30株が原田氏に届き，そのうちの20株を当園にて栽培並びに生育調査を行った。この株は，8月に届いた穂木とは違う品種と言うことでヒロシマシリーズ第2弾として，昭和60年5月「広島のメッセージ」と命名されたが，その後種々の調査を行った所，「ヒロシマの子供たち」と同一品種とわかった。

この品種はHT系に属し，花弁数17～20枚，花径約10cmの半剣弁高芯の中大輪である。花色はクリーム黄で，弁先にサーモン朱色が入るが，開花進度や，日照によりかなり花色は変化する。10月に調査した所，花弁基部が明黄色（日本園芸植物標準色票No. 2506）で花弁先は明紅色（No. 0106）であった。蕾は長卵形で側蕾はやや多く多花性だが，開きが早く花芯が出やすい。葉は半照葉でやや波打ち全体に小振りで穏緑色（No. 4006）である。樹高は80～100 cmで，細枝も出やすくステムは良く伸びるが，やや弱く，多肥栽培向きの品種と思われる。トゲは基部の広い三角形で先はとがり数は多い。微香がある。黒点病にはやや弱いが，その他の耐病性は普通である。交配親は不明であるが，今年度のハークネスのカタログに載せられ，世界中で注目されているそうである。なお，ヒロシマシリーズ



R. Hiroshima's Children

はその後広島バラ園園主，田頭数蔵氏が昭和60年に「ヒロシマアピール」を発表され，今後数品種が予定されている。ヒロシマの名前が付けられたバラが世界中に植えられ，バラによる平和の輪が広がれば素晴らしいことだろう。

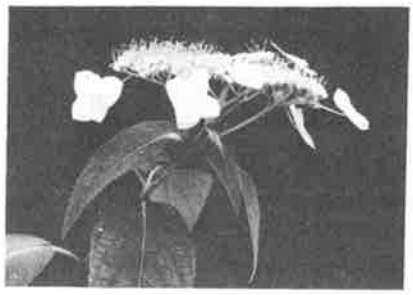
最後にこの文を書くにあたり，資料，助言をして下さった，広島バラ会常任幹事後藤康弘氏にお礼を申し上げる。

Hydrangea strigosa Rehd. の開花

高　山　信　明

本種は，中国西南部原産で樹高2.5ｍ程度になる低木である。日本のタマアジサイと同じアジサイ節タマアジサイ亜節に分類され(1)，葉の表裏に細い毛が多く，古い枝は表面の色が茶かっ色で粗い毛が残る。

1982年２月に上海植物園から分譲された種子を，ミズゴケに播種，1985年８月に開花した。新梢の先端に直径約12cmの集散状の花序をつけ，周辺部に直径２cmの装飾花を数輪つける。装飾花のがく片は４枚で白色，縁にはわずかに鋸歯がある。両性花は内側に密に集まり，花糸，花弁ともに淡紫色であった。



Hydrangea strigosa Rehd.

(1): Michael Haworth-Booth 1975.
The Hydrangeas

園　内　気　象　記　録

園内気象記録（昭和59年１月１日～12月31日）

区分 / 月別	気温 平均最低	気温 平均最高	湿度 平均最低	湿度 平均最高	降水量
1　月	－0.3℃	5.7℃	47.5％	92.8％	33.0mm
2　月	－1.2	5.7	45.5	92.0	52.5
3　月	1.4	9.6	42.6	90.2	71.5
4　月	9.0	18.0	45.7	89.8	209.5
5　月	14.2	22.6	46.9	93.3	92.0
6　月	19.7	26.2	64.6	95.4	316.5
7　月	23.7	30.5	65.0	95.2	71.0
8　月	24.4	32.3	55.4	94.2	70.5
9　月	18.9	26.1	58.0	93.7	127.5
10　月	12.6	21.3	47.7	92.0	82.0
11　月	8.4	16.7	49.2	93.5	46.0
12　月	2.3	9.6	48.8	92.5	65.5
計					1,237.5

〈参　考〉

最低気温記録日

２月７日，８日　　－5.0℃

最高気温記録日

８月10日　　36.5℃

観測は本園植物課事務所横に設置した自記温湿度計（二段記入型，バイメタル，毛髪式，太田計器製作所製）により行ったものであり，降水量は広島地方気象台で観測されたものである。

（高山信明　記）